

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	172001042		
法人名	医療法人北光会		
事業所名	グループホーム朝里		
所在地	北海道小樽市朝里2丁目6番18号		
自己評価作成日	令和7年1月25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームで 訪問看護師が 週2階医療連携で入居者様の体調確認、服薬管理、朝里中央病院と連携 スムーズに対応する事が出来ます。近くには公園、商業施設、海や電車が走っている所が見え、立地条件も良く平地に施設があり 良いお散歩コースがあり とても過ごしやすく 家族様の訪問時にも 訪問しやすい場所にあり とても良い環境です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyouSyOcd=0172001042-00&ServiceCd=320
-------------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム朝里は2006年に開設し、20年目を迎えています。国道を通るバス停や快速列車の停車駅が近く、地域には大型商業施設や多くの飲食店が並び、食材や日用品の購入に便利です。建物は2階建ての2ユニットで、南向きの居間兼食堂を中心に、回廊式の廊下は車椅子でもゆったり通れる広さです。母体法人が運営する病院が徒歩圏内にあり、24時間連絡できる医療体制が特徴です。車椅子利用者が9割を超えるなど利用者の重度化が進んでいる中でも、理念にある利用者の「経験」「個性」「思い」を尊重したその人らしい生活を支えるため、生活リハビリや無理のない運動を重ねてADLの維持に努めています。また、様々な工夫した室内レクリエーション等で、豊かで楽しい暮らしを提供しています。昨年着任した管理者は、事業所内の物品設備の整理整頓に着手し、支援の効率化を図り、利用者・職員の「笑顔」あふれる事業所を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2		
訪問調査日	令和7年3月4日		

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に提示していつでも見られるようにしている。ミーティング時に読み上げている。	事業所の理念を各フロアに掲示し、ユニットミーティング時に理念を唱和しています。管理者は日常支援の一つひとつが理念につながることを職員に伝えていきます。運営推進会議を通じて家族や地域住民への周知も行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭り時、子供神輿がグループホームに来られています。	町内会行事の縮小化で、参加できる活動が減っていますが、子ども神輿の来訪や散歩時の挨拶などで交流を継続しています。運営推進会議には複数の町内会役員の参加があり情報交換をしています。事業所独自でゴミ拾いを行い地域貢献に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練時、来設された方に地域住民の支援の方法を確認しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会やご家族様等に参加していただき、運営状況や、日々のサービス向上に努めています。	2か月に1度の運営推進会議は、家族、地域包括支援センター職員、町内会役員が参加し、運営状況、行事、事故報告等を行っています。同時に欠席家族の意見を周知して、関係者へ議事録を配布しています。管理者はテーマを決めた会議の導入を検討中です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の情報を伝え、相談をして協力関係を築くように取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、有償ボランティア活用のアドバイスを得ています。また、小樽市の介護保険課へは医療連携加算取得について相談をし、運営規程と重要事項説明書の修正が必要との助言を得るなど、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の理解を深め、身体拘束のないケアを実践しています。言葉遣い等にも注意を行い日々取り組んでいます。	3か月ごとの身体拘束等適正化対策委員会のほか、令和6年度は3回の事業所内研修を重ねて職員教育を進めています。管理者は、身体拘束のないケアのために認知症の理解と職員の負担軽減に注力が必要と考え、日々の支援の中で実践・改善に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、高齢者虐待防止法について学んでいます。日々の業務内で話し合いを行い虐待防止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて利用者・ご家族に情報提供できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面接を行い、その情報を理解し意見を聞き、不安がないように努める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはお手紙を書き、職員間で情報を共有し、サービスに反映させている。	家族からの意見は面会・通院、電話連絡の際に確認しています。収集した意見は運営推進会議時に公表し、事業所の回答も伝えています。直近では、一部老朽化した事業所設備に気付いた家族が、修繕に協力しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・申し送りを行い、職員間で意見・提案できる機会を設けている。	管理者は職員とのコミュニケーションでは、「笑顔」の大切さを説き、明るく声掛けすることで意見や提案をしやすい環境を整えています。昨年、職員の発案で事業所通信「朝里便」に個別の日常活動の様子欄を設け、家族に発信したことが好評を得ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何かあれば都度管理者に相談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主体で初任者研修や実践者研修を実施している。また、介護部会による研修などもあり、職員のスキルアップの機会は確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	来訪された同業者と交流することで、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方とより多くコミュニケーションを取り、信頼関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とサービス利用前に説明と話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の方の希望も聞き、本人に必要な支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の一部をお手伝いとして行ってもらうなどしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に通院を手伝っていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話に耳を傾けるなど、本人の思い出を大切にしている。	コロナ禍を終え、友人や知人の面会が増え、遠方の家族・兄弟が来訪しています。日常では職員と昔話をすることや通院時のドライブを活用して、馴染みの人や場所への思いを継続できるよう支援しています。会話困難な場合でも電話で家族の声を聴くことで満足感を得ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、同じ場でのレクリエーションやお手伝いなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去された後も家族の方から相談があった時は対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から本人の要望を聞くようにしている。	入居時に本人・家族から意向や思いを確認し、介護計画を策定しています。できる限り当事業所で過ごしたいとの意向が多く、その人らしい生活の実現に努めています。意思疎通が困難な場合は表情やしぐさ、家族からの意見を聴取し、職員で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族に生活歴等を聞き、馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。グループホームでの生活を今迄の生活に近づけられるように取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や職員間での情報共有、その人の過ごし方、有する力等の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の要望を確認した上で職員間で話し合いを行い、それぞれの意見を反映し現状に合った介護計画書を作成している。	初回は、食事、排せつ、静養、歩行を中心とした介護計画を立案し、日常ケアの中でモニタリングと再アセスメントを行い、1か月後に再策定、その後は3か月をめぐりに計画作成しています。心身の状態に変化があった際は随時見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、ケアの結果や気づきを個別記録に記入。職員間で情報を共有し、必要に応じて家族と連携しケアの実践をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族から要望を聞き、その時々状況により現れるニーズに対応した柔軟な支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、行政機関との関わりを持って、地域資源を活用できるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・ご家族の意見を大切に、かかりつけ医と良い関係が築けるよう、適切な医療を受けられるよう支援しています。	近隣にある法人が運営する病院への通院は職員が同行しています。入居前からのかかりつけ医や専門医への通院は家族の協力を得て、送迎の要望に応えつつ支援しています。週2回の訪問看護のほか、医療機関とは病状や服薬内容を共有しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療法人で施設を運営しており、週に二回訪問看護師が来るので、その時に入居者様の様子を伝えて相談をしている。入居者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように、病院と密に連絡を取り情報交換を行っている。また、病院関係者との関係者との関係づくりを行い、利用者が早めに退院できるよう連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、本人・ご家族様と事前に話し合っ方針を確信している。情報や方針はチームで共有し、支援に取り組んでいる。	「重度化・看取りに関する指針」を入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ています。急変時には、24時間対応の訪問看護師の指示を仰ぎ迅速な対応をとっています。法人の病院と連携し、終末期と判断した後は入院対応とし、事業所での看取りは行っていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を受けており、実践力を身に付けている。急変や事故発生時に備え、日頃からマニュアルを読み、職員間で話し合いも行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に二回行い、全職員が避難できる方法を学んでいる。また、地域の方には運営推進会議等で協力体制をお願いしている。	避難訓練は消防指導の下、夜間の地震による火災を想定して令和6年8月と令和7年2月に実施し、効果的な伝達法など学んでいます。備蓄品、備蓄食をはじめ、冬季災害に対応した暖房器具を準備しています。BCPIは法人が作成し感染症や災害の発生に備えています。	避難訓練では振り返りし、職員で課題を共有しています。法人作成のBCP(業務継続計画)は事業所内で保管されていますが、職員への周知には至っていません。様々な災害時に迅速かつ正確に利用者・職員の安全が確保できるよう、BCPの周知、活用が期待されます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や気持ちを尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。朝・夕の申し送り等で情報の共有に努めている。	利用者の尊重やプライバシー配慮をテーマとした内外の研修で職員理解を深めています。職員の声掛けが不快感を与えないよう、言葉や声の大きさに注意しています。居室での食事希望に応えるなど、利用者が趣味等で過ごす自由な時間を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が正直な気持ちや希望表しやすい環境作りを心掛けている。また、自己決定出来るように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様一人ひとりのペースを大切にし、職員側の都合を押し付けたりせず、その日の過ごし方は希望に沿って支援している、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容室に来ていただいており、入居者様様の要望通りおしゃれができる様に支援している。また、離床時に整容のお手伝いをしたり、その人に合った支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は手作りの料理を提供し、行事やお誕生会では、利用者の好きなもの等、日頃食べられない食事を提供しています。	朝夕の食事は配食サービスを利用し、昼食は職員手作りで提供しています。主食量や塩分量、食事形態など個々の利用者に対応しています。利用者のリクエストにはすべて職員手作りの料理で応え、時には利用者から食材利用法や調理のアイデアを聞き、活用しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事を提供し、食事量や水分量の確認を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは出来る所迄やって頂き、不足は仕上げ介助行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムに合わせ、声掛け誘導を行っています。オムツ利用の方には、時間毎に確認取っています。	排泄はフロアごとの排泄管理表から個人記録へ転記して排泄パターンを把握しています。全介助の利用者が9割で、バイタル、食事・水分の摂取量も同時に記録し、健康状態を確認しています。排泄量と回数に応じて衛生用品を選択しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄票を利用し、排便の有無を確認しています。排便が無い場合は水分を多く摂って頂いたりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	浴槽に入浴剤入れ、リラックスして頂いています。拒否が有る時は無理せず、ご本人の都合に合わせて支援しています。	利用者の希望やタイミングを図り、週2回以上の入浴を支援しています。拒否者には相性の良い職員が対応し、立位が取れない利用者には職員2名で介助しています。同性介助が難しい時は湯あみ着を着用して羞恥心に配慮した支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合った入眠時間があるので、それに合わせ、休んで頂いています。ゆっくり休んで頂けるようホームの電器は夜間照明にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤の情報用紙を閉じてあるので、それを確認、服薬時、服薬後の変化がないか様子観察行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせ食器拭きや洗濯物干しの言手伝いをして頂いたり、季節に合わせた行事に参加して頂いたり、季節に合わせた行事に参加して頂き楽しんで頂く支援をしています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい時は散歩をし、季節を感じて頂き、いろいろな風景を見て楽しんで頂けるよう支援しています。	車椅子利用者が9割を超え、遠方へのドライブは実施が難しくなっていますが、通院時のドライブや外気浴で気分転換を図っています。近隣の公園で花見を兼ねておやつを食べるなど、利用者の心身に負担のない外出支援を心がけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金の管理ができる方は、使える支援をしていますが、管理するのが困難な方は、ホームで管理しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人希望で電話をかけ通話して頂いています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によりホームの内の飾りつけをしています。掃除、消毒、換気は毎日行っており居心地の良い空間作りをしています。	対面式キッチンとリビングは、広い回廊とともに開放感があり、車椅子の移動にも支障ありません。家庭的な雰囲気を大切に、ひな祭りのタペストリー以外の華やかな装飾は控えています。温湿度は室内干しで調整し、居心地の良い環境づくりのため整理整頓に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いており、テレビを観たり新聞を読んだり、利用者様同士で会話をされています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを置いたり、写真を飾ったりし、ご本人様が居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	入居の際には、家族写真や気に入った書類などの思い出の品のほか、車椅子移動に支障がないような小型の家具やテレビを持ち込んでいます。個々の利用者が自分の生活スタイルに合わせた時間を過ごせるよう、衛生保持に細心し、安心安全な環境維持に努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に行動できるようテーブル、椅子の配置の工夫、居室入り口や共用部分には名前を付け、見てわかりやすい工夫を行っています。			